



ジャーナル

第49号

2026年7月

発行／日本オステオパシー学会

〒167-0053 東京都杉並区西荻南

2-26-2 ワイズビル 1 階

TEL 03-5344-9049

FAX 03-5344-9079

JAPAN OSTEOPATHIC ACADEMY JOURNAL

J. O. A. 日本オステオパシー学会



～Topics～

1. 論説
2. AAO コンボケーション参加レポート
3. JOF 小児オステオパシー研究会の活動報告
4. JSCS アカデミージャパン
5. 解剖研修レポート
6. 経営理念
7. オステオパシーの科学性 (JCO レポートに代えて)
8. JCO 卒業論文
9. JOA 一般社団法人化についての経過報告
10. MROJ 試験合格体験記
11. JOA 新規入会者紹介
12. UIJ レポート

SER(体性感情解放)とエネルギーシスト

UI ジャパン CST1 インストラクター

三好 惟久, CST-T

ある女性が右手の痺れを訴えて来られました。私とその女性の右肩にあるエネルギーシストに触れた途端、その女性が「火事だ！火事だ！」とベッドの上で騒ぎ始めました。私は「先ほど説明しましたね。あなたは大丈夫です。イメージが見えているだけです。」と落ち着いてもらいました。しばらくすると女性「いや、これは火事じゃない。火炙りだ！」と叫びました。その女性は火炙りの刑に自分があっているイメージを見ていたのです。2回目のセッションでは最初のCV-4でSERに入りました。そしてその女性が「切られる！切られる！」と叫び始めました。私に何が起きてるのか尋ねると「今まさに刀で、刀で右腕を切られそうだ！」とひどく恐れている様子でした。どうやら彼女は罪人で捉えられ刀で右腕を切られるイメージを見ていました。3回目のセッションでまたCV-4でSERに入った彼女はベットに横になったまま手刀を作り盛んに空手の型の様な動きを始め、ひとしきりすると今度はオーケストラの指揮者のように盛んに手で指揮棒を振る動きをしたのです。彼女はその後、右手の痺れの消失とともに来なくなりました。毎回、セッション後にその日のイメージについて少し話しましたが、どのシーンも彼女の今まで生きてきた中の記憶にはないものばかりでした。という事は全て彼女の過去世での体験から来ていたと考えるしかありませんでした。



私はセミナー生としてSERを初めて受けた時から、このような不思議な現象を度々見聞きしてきましたがあまりその理由は深くは考えずに

「そんな事もある」

と受け流してきていました。今まで生きてきた人生の中でのトラウマや強いストレスの話までならまだ理解できるものの（ボディ・マインド・スピリットのマインド迄）前世、過去世の話（魂スピリットの部分）が何故出てくるのか理解不能でした。

ところがここ数年、頻繁にこのようなSERセッションが起こる様になり私自身やって気が変になるとまでは言いませんが何か今起こってる現象について納得する理由を見つけないと自分のしている事（SER）は何の為なのか頭の中で整合性が取れなくなりました。



私なりに出した結論は日本の古神道にありました。スピリット（魂）の部分で日本の古神道の考え方と古代インド哲学（ウパニシャッド）の考え方はほぼ一致します。この2つのゴールは同じで魂と神（宇宙）との合一、統合（源に還る）です。

正確には少し複雑な部分もありますが、ここでは簡略化して説明します。

図 A-1 を見て頂ければわかりますが、そもそも古神道では人を霊止（ヒト）と書き表します。つまり人間は霊が止まる、つまり霊エネルギーが溜まりやすい、もしくは溜まる存在であると認識しています。古神道ではその人間の魂の周りに魄（ハク）と穢れ（ケガレ）という霊エネルギーが溜まってくっついていてと考え、この2つを修行によって取っていき魂の周りをできるだけ綺麗にして源に還る事を目指します。魄には有形の魄と無形の魄があり、有形の魄は我々の身体、無形の魄とは残留思念の事になります。穢れとは生命力を落とす（穢す）ものでストレス（トラウマ）や病気、自己流による外的エネルギーとの交流（エネルギーには正邪があると古神道では考えられていてそれを審判できる審神者サニワという存在がいました図 A-2）等になります。

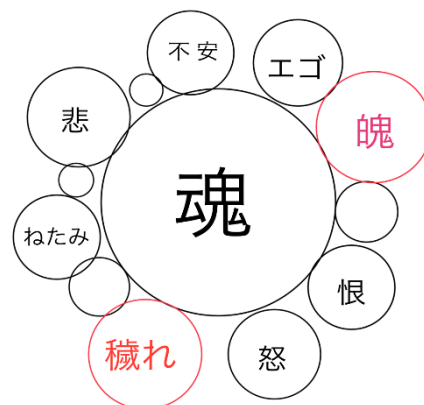


図 A-1

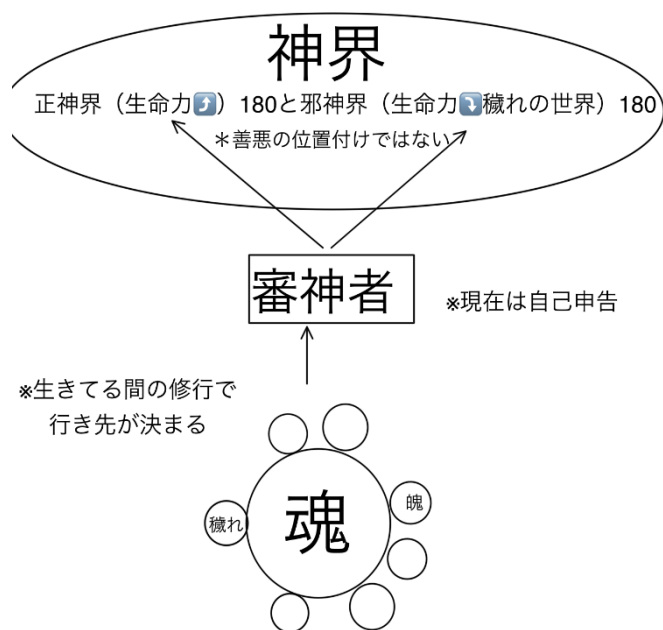


図 A-2

私の仮説として SER をこの古神道の考え方に当てはめるとエネルギーシストの中にこの魄や穢れがあり、それがボディ・マインド・スピリットの不調として顕在化してくる。SER をする事でそのエネルギーシストの中のスピリット（魂）についでる魄や穢れの霊エネルギーが反応しやがて消失する。その過程で過去世のイメージや動き、感情（残留思念）の開放が起きているのではないかという事です。先に挙げた女性の場合、まさしく古神道で言うところの魄つまり、過去世で火炙りや処刑にあった時の感情、空手家や指揮者として手を酷使した時の感情が残留思念としてスピリット（魂）にくっついていて手の痺れの原因となり、それが SER によって解消したのではと考えました。

このような考えに至ったある日、別の男性クライアントが来た時にセッション中に SER に入りました。その際にその男性の方のイメージの中でアプレジャー博士が出てきました。ひと通りその男性とアプレジャー博士の会話が終わろうとしていた時、（本当はしてはいけない行為だったかも知れませんが）私は思い切ってその男性を通じてアプレジャー博士に自分の個人的な質問をぶつけました。（ちなみに私はアプレジャー博士に実際にお会いした事はありません）

私「インナーフィジシャンとは魂の事ですか？」

アプレジャー博士「そうとも言えるし、それは人それぞれ解釈が違うよね」

(恐らく魂でなければ真我、高次の自己、ハイヤーセルフ等 三好注)

私「では何のために SER (体性感情解放) をするのですか？」

アプレジャー博士は一言で

「宇宙と繋がるため!!」と言われました。

(これも人により宇宙の解釈が違うので恐らく、神、仏、愛、サムシンググレート、源、等 三好注)

図らずもその時のアプレジャー先生の回答が私が仮定として考えていた古神道や古代ヨインド哲学 (ウパニシャッド) の考え方と一致したのです。

ちなみに古神道では私達個々の魂は神の分け御霊つまり神の一部分と考えられているので源に還る為に魂についた余分な不浄なもの (魄や穢れ) を落として還るのは至極、自然な事です。

宇宙 (源、神) との繋がりが良くなるという事は他の何かに頼る事なく自分の考えを迷わず信じて生きていけるという事で、それは即ち自分を信じる文字通り「自信」を持って生きるという事に繋がるのではないのでしょうか？

以上により私達 CST セラピストは SER を行う事によりボディ・マインドそして魂であるスピリットの部分までエネルギーシストを通してアクセスしてその方々を全体的な健康に導く事で、人々が宇宙と繋がり、自信を持って明るく健康な人生を送るその手助けを日々実践しているという明確な確信を得た次第です。



三好 惟久 (KOREHISA MIYOSHI) : CST1 インストラクター、CST-T

2017 年アプレジャーインスティテュートインストラクター就任

長崎県出身。M'sLAB 得寿堂代表(東京都渋谷区千駄ヶ谷)。PACC 会員、日本フラワーエッセンス協会認定セラピスト。

